

視点

子どもたちの非認知的な「力」を育む

佛教大学

副学長 原 清 治



2020年以降、コロナ禍による影響は子どもたちに多大な影響を与えています。そのひとつがオンラインゲームの流行です。この種のゲームは、スマートフォンやタブレットで遊ぶことが可能であるため、子どもたちにとって格好の遊び場となりました。オンライン授業を余儀なくされ、外出も規制され、ゲームにのめりこむ子どもの事例が数多く報告されています。その結果、例えばゲームに課金をしすぎたり、ボイスチャットで友人関係に齟齬をきたしたり、昼夜逆転の生活になってしまったり、と上げていくと枚挙に暇がありません。その結果、学校に戻ることが難しい子どもが多くなっているという実態は文部科学省のデータ（注1）からも明らかです。

一方で、こうしたネット空間の広がりや、子どもたちの人間関係の作り方を脆弱にしてしまったと指摘されています。振り返ってみると、コロナ禍以前より、マスクをしなければ学校に来ることができない子どもたちの存在は指摘されていました。また、不登校者数増加の背景に人間関係がうまく紡げないことを要因としてあげる研究もいくつかみられるようになってきています。

そもそも幼児教育の時期に身につけておかなければならない「力」とは何なのでしょう。現代の子どもたちに求められている資質能力として「学力の三要素」があります。①基礎的・基本的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度の三つです。関連して幼稚園教育要領や認定こども園教育保育要領では、保育の五領域を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」と設定しており、とりわけ幼児期においては「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の内容が明記されました。

近年は幼児教育において非認知的能力の育成が注目されています。非認知的能力は意欲、忍耐力、自制心、創造性、回復力と対処能力など、小さいうち

から鍛えることが可能なものが多くあります。わけでも、幼児期から人間関係を伴う「力」を育てることが急務となっているのです。

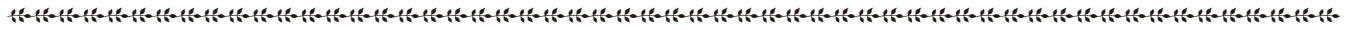
現代社会を生きる子どもたちの実態をみると、わが国の子どもの「生きづらさ」が確認できます。例えば、子どもたちの自尊感情は学年の上昇に伴って低下しています。「自分はダメな人間だと思うことがある」割合は先進諸国のなかでも高く、72.5%の高校生が「そう思う」と回答しています。一方で、幼児期において子どもたちの自尊感情はとて高くなっています。さまざまな幼稚園で子どもたちの「やってみたい」「これを頑張りたい」を支援する取り組みの成果であるといえるでしょう。さらなる充実を図るためには、教職員、保護者、地域の連携が求められます。そのためには多様な人と群れるだけでなく、言葉を交わし、関わるといった「交わる力」が子どもたちに求められています（志水宏吉・前馬優策『福井県の学力・体力がトップクラスの秘密』（2014））。

人間関係力を育成するためには、やはり人との関わりをいかに「仕掛けるか」ということが求められています。これまでであれば、子どもたちに他の子たちと遊ぶ場所や時間さえ確保すれば、勝手にコミュニケーションをとってやり取りをすることができました。しかし、コロナ禍により、声をあげる環境が制限されることによって、子どもたちの主体性そのものへの影響が見られるようになってきました。先生方や保護者の皆さんの関わりが、これからの子どもたちの人間関係に大きく影響します。それは人間関係を紡ぐ力だけではなく、学力のような認知的能力にも影響を与えるのです。

皆さんの日頃の教育活動が明日の子どもたちの礎となり、よりよいものになることを願っています。

（注1）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm



幼児教育の質の評価②

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道

園庭で年長児がドッジボールをしようと声掛けをしています。集まったのは11人でした。このままだと5人と6人になるので、もう一人集めようと何人かに声を掛けますが拒否されてしまいました。困った顔をしていたところ、中にいた一人が「Kちゃんがいるから、Kちゃんのチームは5人でいいやん」と発案しました。そうするとみんなが納得してドッジボールが始まり、皆は楽しそうにゲームを楽しんでいました。

この光景を見ていた時、個体数という5と6の違いを、実力という視点から補正をかければ平等だという発想に新鮮な驚きを感じました。実際、社会で見るデータの多くは補正係数を使って処理しています。データをどのように集めるか、そのデータを実社会に適応するにはどのような補正が必要かは実社会ではよく起こる現象です。人数の違いを実力という未知の係数で補正することによってゲームを楽しもうとする姿は、最近よく言われる非認知能力の原点なのです。

このことを某研究会で発表すると、ある園長先生が「人数の違いを、コート面積を変えてドッジボールを楽しんでいる姿を見た」という話を伺いました。これも、ゲームを楽しむための工夫、非認知能力の原点です。

このような能力を育むためには、自由に遊ぶ空間・時間、園庭で何度も同じ遊びを経験できることが重要です。そして何よりも、皆で遊ぶ楽しさを味わうことが重要なのです。

保育所保育指針の会議などで園庭を持たない保育

所の問題を話題にすると、そこに通う園児も計算能力や文字の獲得など、小学校教育に必要な基礎能力は獲得できていると返答を受けていました。現在のよう、幼児期の教育が実社会に結び付いた非認知能力の原点である議論が出てくる前でしたので、小学校教育の基礎はできているということに反論する機会はありませんでしたが、今であれば、社会の能力の原点が4・5歳児の教育環境にあるという世界的な知見から、「環境による幼児教育の大切さ」をもっと主張できると確信しています。日本が100年後も輝き続けるためには、全ての園が園庭を保有している私立幼稚園、私立幼稚園由来の認定こども園が頑張らなければならないのです。

ただし、幼児教育の質の評価を導入しようとするとき、一つの指標で評価が決まり、どの園も均質な幼児教育になっていくことは避けなければなりません。私学の独自性は、様々な発想で園が運営されている原点を崩さないようにしないとその特性を失ってしまいます。公教育の一翼を担っていることは事実ですが、かといって同じ教育を求められることは避けなければならないのです。評価という実を導入するとき、この視点は絶対に譲れない大切な条件であると考えています。

全日本私立幼稚園連合会・全日本私立幼稚園 PTA 連合会からの報告 ～事件経過報告②～

この度の会計不祥事について、田中雅道・全日私幼連会長から加盟園ならびに関係者各位へ、現況を報告させていただきます。なお、本件に関しましては、今後も経過報告を行っていく予定でございます。

全日本私立幼稚園連合会
加盟園 各位
全日本私立幼稚園 PTA 連合会
関係者 各位

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道

令和3年5月、このたびの横領事件の金額が6億8千万円であると公表した後も警視庁の捜査は進んでいきました。警視庁の方が本連合会の事務局に來られ、必要な書類の提出を求めたり、事務局員に事情聴取を行ったりということがありましたが、対外的には何事もなく、時は過ぎました。

令和3年12月、警視庁の方が私の園まで來られ、捜査状況の報告を受けました。6億円を超える金額を誰が何に使ったのかという捜査を終了したとの報告を受けました。そのうち概略だけの説明を受け、その内容は、8割から9割の金額は勝倉前事務局長が横領したとも報告を受けました。本連合会が調査をお願いした大久保公認会計士には、正式な会計手続きを経ず、銀行から引き出されていた金額と会計からの支払いを確認していただき、領収書の添付や稟議書の添付がない分を合計した金額を被害金額として計上していただいております。一方、警視庁の方より、香川前会長と勝倉前事務局長のカード利用履歴等の個人的な支払い状況から、疑わしい金額を積み上げて、横領金額の確定作業を行ったことも伺いました。警視庁の方との雑談の中で私を感じましたのは、勝倉前事務局長は、すべての金額を香川前会長の指示で出金していたと主張しているようでした。また、捜査が進んでいる状況を勝倉前事務局長が知ると、海外逃亡や証拠書類の隠滅が起ると捜査に影響が及ぶため、事件の概要について、私からの発言は控えてほしいと要請されておりました。そして、年明けには勝倉前事務局長・香川前会長宅に家宅捜査に入られたことも報告を受けました。横領金額の用途については何も聞かされておられません。これからの裁判を通して公表されていくものだ

と考えています。

その後、警視庁から捜査の関係上、香川前会長在任中のすべての資料について目を通したいという要望がございました。本連合会としては、平成29年度以降の横領事件を告訴しておりましたし、平成29年度以降のあらゆる会計関係書類はすでに提出していたのですが、公判を維持していくうえで、平成29年度以前についても必要な資料と判断されたので、捜査に協力するために任意の形で提出することといたしました。したがって、このたびの捜査の中で、警視庁は、本連合会が被害を受けたと告訴している平成29年度以降の資料だけでなく、香川前会長在任期間のすべての資料を確認されています。その中で、何が起り、何が犯罪であるかということ判断され、令和4年7月の逮捕・起訴にいたっています。

令和4年5月、本連合会の総会後、警視庁から2度目の事情聴取がありました。そこでは、香川前会長を立件するため、少なくとも、一人で使われた会食については本連合会の正式な稟議を経ないこと、団体として正式な支出として認められないことの確認を求められました。銀座での飲食の支払いと複数の方との会食については、香川前会長が団体のための情報収集という主張をされるかもしれないためです。また、某宿泊施設でのマッサージ等の支払いについても、団体としての見解を求められ、本連合会は銀座での支払い、宿泊施設での支払いについて、団体として承認できるものではないという旨、調書にサインしています。

2月号につづく

全日本私立幼稚園連合会の振興活動 ～自民党・学校施設耐震化議連～

去る 10 月 14 日、自由民主党本部にて、学校施設耐震化議連総会が行われ、田中雅道会長が出席しました。
本連合会からは、幼稚園等の耐震化に対する支援および園務の ICT 化に対する支援を自民党国会議員の方々をお願いいたしました。

● 10.14 自民党・学校施設耐震化議連



全 日 私 幼 連 の 研 修 会

● 10.14

令和 4 年度 102 条園委員会研究会議

10 月 14 日、東京・TKP 市ヶ谷において、令和 4 年度 102 条園委員会研究会議がオンライン形式にて開催され、全国から 167 名の先生方が参加しました。

はじめに、尾上正史・全日私幼連副会長より開会のことばがあり、鍋島豊氏（内閣官房こども家庭庁設立準備室・内閣参事官）より、こども家庭庁についてご講演をいただき、こども家庭庁の検討経緯やこども政策の推進に係る有識者会議報告に基づきながら、こどもまんなか社会の実現に向けて、こども家庭庁準備室が取り組まれていることをご説明いただきました。講演の後は、参加者からの事前質問および当日質問（チャット形式）に対し、鍋島氏よりご回答いただきました。

最後に、溝渕真澄・全日私幼連 102 条園委員長より閉会のあいさつがあり、研究会議は終了しました。

なお、102 条園委員会研究会議の様子は、本連合会のホームページにて、12 月 28 日まで加盟園限定で公開いたします。以下 QR コードおよび



URL よりご視聴できますので、視聴期間内にご確認ください。

(<https://zennichishiyouren.com/shiryo-page>)

QR コード



監事監査・委員会の上半期活動などを報告

令和4年10月21日、東京・グランドヒル市ヶ谷にて団体長会・理事会合同会議が開催され、58名が出席しました。

はじめに、内野光裕副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

その後議題に入り、議長に四ツ釜雅彦氏（埼玉）と宮地彌典氏（高知）が選出され、議事録署名人に今西界雄氏（岩手）、奥野宏氏（大阪）が選出されました。

■報告案件（1）監事監査報告について

監事監査報告について、川島教孝監事、畠山一雄監事、内橋彰監事から7月に実施された監査会ならびに8月に行われた監事打合会の報告がありました。

■報告案件（2）委員会報告について

各委員会委員長から上半期の活動報告ならびに下半期の目標・課題の報告がありました。

■報告案件（3）（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構からの報告について

（一財）全日私幼研究機構・安家周一理事長はじめ、宮下友美恵副理事長ならびに川名マミ副理事長、加藤篤彦専務理事から、組織の存在意義と令和4年



度から令和8年度までの5年間における事業計画について説明がありました。

組織の沿革やこれまでの事業展開に触れながら、今後、全国組織だからこそ実現できる幼児教育質向上への取り組みについて報告がありました。また、（一財）全日私幼研究機構が必要である理由について、次の6つの観点（1. 研修事業、2. 評価事業、3. 調査研究事業、4. 家庭教育啓発事業、5. 広報事業、6. 関係各所との連携・調整事業）からこれから取り組む具体的な事業内容を含め詳細に説明がありました。

最後に角谷正雄副会長から閉会の言葉が述べられ、終了しました。

（総務委員長・福井徹人）

チャイルドブックの月刊保育雑誌

ポット

定価1,100円(本体1,000円+税10%)
www.childbook.co.jp/pot/

2022年度のポットは

大特集 & プチ特集の
W特集で
保育力アップ!

さらに「ポット指導計画」は
毎月付録になりました。
指導計画はポットにおまかせ!

チャイルド本社

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
www.childbook.co.jp/pot/

ご注文は、貴国担当のチャイルドブック販売店
または書店まで。

令和4年度 地区教研大会概要

北海道地区 教育研究大会

北海道・札幌市／8月1日

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

- 全道大会（8月1日／札幌市）
- ブロック大会
 - ・道央ブロック（8月27日／岩見沢市）
※オンライン配信併催・公開保育は事前にオンデマンド配信
 - ・札幌ブロック（9月22・23日／札幌市）
 - ・道東ブロック（10月1～8日）
※オンデマンド配信
 - ・道南ブロック（10月15日）
※オンライン配信・公開保育は事前にオンデマンド配信
 - ・道北ブロック（11月26日／旭川市）
※オンライン配信併催・公開保育は事前にオンデマンド配信の他、当日にオンラインによる保育研究討議

北海道は広域のため、全道型の教研大会の他に北海道内12支部を5つのブロックに分けた教研大会を実施しています。また、研修会のテーマは全日私幼幼児教育研究機構の令和4・5年度の教育研究課題「『新しい時代を伸びやかに生きる』～社会に開かれた質の高い幼児期教育を～」を研修主題として取り組んでいます。

例年、地区大会は夏季に全道大会として「研究課題別」、併せて各ブロック大会は「公開保育と公開保育研究」を中心とした研修を対面にて行ってきましたが、新型コロナウイルスの影響でここ2年はなかなか実施が難しい状況が続いております。

現在も収束が見えない状況ながらも、子ども一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を提供すべく、幼児教育に関わる者の専門性を高める事を第一の目的に、感染対策をしっかりと行いながら、本年度は対面式・オンライン配信併催・オンデマンド配信など、様々な手法で学びの機会を取り戻し始めています。

そのような中、8月1日の教育研究大会も人数

制限をした会場参加とオンライン配信（定員なし）の併催で行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により配信ができない事態が発生し、当日は急遽会場のみ予定どおり実施。オンライン配信については後日オンデマンド配信に変更して行うこととなりました。北海道ではオンライン配信を外部委託せず、協会で行っておりますが配信やICT活用を担う複数の人材育成という課題も浮き彫りとなったところであり、現在、このことに対する検討を進めているところです。

8月1日の教育研究大会を皮切りに上記の通り各ブロック大会も順次開催されておりますが、ブロック大会においても地域の実情に併せて、対面・オンライン配信併催、オンデマンド配信、また、公開保育もオンデマンド配信で行うなど、工夫を凝らして学びの機会を確保しています。なお、8月1日の第64回北海道私立幼稚園教育研究大会では、基調講演に鳴門教育大学教職大学院教授・佐々木晃先生に「主体性や非認知能力が育つ環境構成と援助」との演題にてご講演をいただき、その後、「マネジメント」「乳児」「特別支援」「幼小連携」「アレルギー」をテーマに5つの分科会を開催いたしました。

新型コロナウイルスで様々な影響があり、協会をはじめ各地域や各園ともに研修機会の確保に苦心しておりますが、その対応の一つとしてオンライン・オンデマンド配信が進んだことにより、広大な北海道の各地からも参加しやすくなり、各研修会の参加者が増加するという効果も出てきております。

今後、新型コロナウイルスが収束したとしてもICTを活用した手法が必須となってくると思います。様々な工夫、新たな取り組みを創出しながら、引き続きしっかりと学びの機会を確保し、教育・保育の質の向上に努めていきたいと思っております。

（（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究委員長、江別市・認定こども園元江別わかば幼稚園／土谷直穂 実）

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～未来に向かって 子どもが主役の幼児教育を～

関東地区教員研修大会は、前回の山梨大会以来3年ぶりの開催となりました。本来は令和2年度に開催される予定が、新型コロナウイルスの影響でオリンピック開催が一年延期となり、この大会も延期を余儀なくされました。徐々に大会開催が出来ると思気込み、2年以上に亘り準備を進めてまいりましたが、依然としてコロナの終息が見通せず、4月下旬の関東地区・神奈川地区理事会にて、原則オンライン開催の方向で進めることが承認されました。7月に入り、コロナ感染が急激に増加し、第7波の到来となりました。4月の段階では、ここまでの感染拡大は予想していなかったものの、結果としてオンライン開催の決断が功を奏し、何とか開催にこぎつけることが出来ました。

関東地区各県団体のご協力もあり、登録者は1,700名弱となりました。横浜の地に足を運んで頂いたのは、関東地区・神奈川地区役員の先生方等であり、ほとんどの参加者は勤務する幼稚園か、ご自宅からのオンライン参加となりました。大会開催の一週間前には、オンラインのリハーサルを行い、通信環境の維持には万全を期してまいりました。とはいえ、初めての事ばかりで、2日間の大会を乗り越えるには、相当な努力が必要でありました。幸い実行委員会の中に、オンライン配信に精通しているメンバーがおり、万全の準備を進めてくれました。

大会一日目は、加盟園である岩崎学園からの配信となり、関係者及び役員数名が集まり、全体会（開会式）及び基調講演、アトラクションを配信致しました。事前に全日本私立幼稚園連合会田中雅道会長、神奈川県黒岩祐治知事、横浜市山中竹春市長からはビデオメッセージを頂き、会場からは関東地区角谷正雄会長、神奈川県連木元茂会長からご挨拶を頂きました。基調講演は、脳科学コメンテーターの黒川伊保子氏の「感性コミュニケーション～話が通じな

いの正体」と題して、共感力の大切さを学びました。アトラクションは劇団かかし座による影絵が披露されました。

大会二日目は、15のフォーラムに分かれて、研修を行いました。原則オンラインでの開催であり、各県の教研担当者を始め、団体事務局や問題提起者の園の皆様のご協力が必要でありました。一週間前のリハーサルが功を奏したこともあり、当日は配信トラブルもなく、無事にオンラインでの研修が実施され、当初の目的を達することが出来ました。

フォーラム10「園長・設置者向け」はハイブリッドにて開催、オンラインでは60名強、パシフィコ会議センターには対面で120名を超える参加者にご参集頂きました。フォーラム13のECEQ®公開保育、フォーラム14のヨット研修、フォーラム15の酒造・保育園見学も対面にて問題なく開催することが出来ました。また、神奈川大会での独自の取り組みとしては、各園の魅力を伝える「ほいくの宝箱」を実施致しました。今回はオンライン版として27の加盟園にご参加を頂きました。大会初日から終了後も8月24日までご視聴頂けるよう配信致しました。工夫をこらした27園の動画は、保育者を目指す学生達も視聴することが出来、好評のうちに終了致しました。

様々な制約が多い中でも、大会を開催できたことに喜びを感じるとともに、この教員研修大会の意義を再認識する機会となりました。全てが終了した時には、安堵感に包まれるのと同時に、いつかはこの横浜の地で皆様に再会したいとの思いを強く致しました。

大会開催にご協力頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。神奈川大会のご報告とさせていただきます。
(神奈川県私立幼稚園連合会大会実行委員長、厚木市・厚木田園幼稚園／小澤俊通)

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

今年度の中国地区教研大会は、全国で一番小さい団体の島根県が担当し、対面での開催を念頭に、2年ほど前から計画して準備を進めてきました。

中国地区の教研大会は、研究発表を中心とする年と、開催県独自の人物や文化的環境を生かしたワークショップを中心とする年を交互に取り入れていて、今年度はワークショップ中心の年でした。開催地の松江市を中心に、参加者の皆さんが楽しみながら学んでいただけるようなワークショップになるよう、地元の園が手分けをして魅力ある分科会作りに努めてきました。

しかし、コロナの感染状況は収まるどころか、島根でも中国各県でも再び増加傾向になり、開催の約1か月前になって対面での開催を断念し、1日目に予定していた「記念講演」と「基調講演」だけをオンラインで参加者に伝えることにしました。

会場は、JR松江駅前の松江テルサに変わりはありませんでしたが、広いホールではなく、中会議室が急遽ミニスタジオに変身しました。3本のカメラにマイクやオンライン配信のための機器類が並び、アクリル板も立ち並んで、ちょっと異様な空間になりました。そのミニスタジオに丸山達也県知事を迎え、全日からは田中雅道会長が交通トラブルにも関わらず、わざわざお越しくださいました。

記念講演は、俳優の佐野史郎氏にお願いし、会場までお越しいただきました。生地は山梨市ですが、実家は松江市にあり、小学校から高校までの時期を松江で過ごしていました。ご本人から「講演ではなく、対談形式でしたい」との要望があり、地元松江で司会やリポーターを務めている荒木まどかさんに相手役になっていただき、荒木さんからの質問に佐野氏が答える、という流れで進んでいきました。

テーマは「本当に大切なもの」。佐野氏は、松江に縁の深い小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が

書いた怪談を読む活動に以前から取り組んでいて、ハーンの出生地ギリシャや幼少期を過ごしたアイルランドでも、怪談を読んできました。この日は、佐野氏自らが選んだ「水飴を買う女」を朗読してくださいました。選んだ理由は「短いから！」ということでしたが、「幼児教育に関係することであれば、母親の愛情はどこの国も、いつの時代も変わらない、ということを示しているから」とのことでした。

佐野氏には実行委員会からの要望として、出雲市出身の長谷川摂子さんの絵本『めっきらもっきらどおんどん』を読んでもらいました。「読む」という行為について、佐野氏は何度も「素で」とか「プレーン」という言葉で表現されました。つまり、あまり感情を込めないで読むということです。しかし、読んでいるうちに話の中に入り込んでしまうこともあり、それはそれで構わないのではないかとおっしゃいました。自分の感覚や体に正直であるべき、ともおっしゃいました。

基調講演は、オンラインで大妻女子大学の岡健先生に依頼しました。コロナ禍で、島根にとっては3年越しの講演が実現しました。テーマは「保育の『専門性』と質の向上への組織的な取り組み ～“わたし”が“みんな”と学ぶこと～」でした。前半は先生編著の『演習 保育内容「環境」』（建帛社）の中にある「保育の構造（構成要素）と専門性」の図を中心に話を進められました。

後半は保育現場で撮った写真をどのように読み取っていくのかを具体的に示してくださいました。岡先生の「見ていても、見えていない」という言葉がズキッと、胸に刺さりました。

（（一社）島根県私立幼稚園連合会理事長、出雲市・認定こども園光幼保園／西谷正文）

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

令和4年8月3日と4日の二日間にわたり、四国4県から664名が参加して第36回四国地区教育研究大会愛媛大会が、松山市を配信会場に開催されました。四国地区協議会では対面での開催を視野に準備を進めてきましたが、2月からの新型コロナウイルス感染急拡大をうけて、すべての会をオンラインで行うことに決定しました。前年度の35回大会を主催した高知県の方々とも連絡をとり、昨年の問題点を抽出して運営に活かすことができました。しかしながら、一つのホテルを配信会場として6つの分科会や設置者園長部会等を行ったため、通信や設備についてはもう少し事前の確認が必要であった点もありました。それらの反省点は四国地区協議会でも報告し、今後活かしていければいいと考えています。コロナ収束如何にかかわらず、今後もオンライン研修が実施されることは確実ですから、比較的ITC化が遅れている四国地区でも徐々に理解を深めていく必要があると思います。オンライン研修が主になって2年あまりたち、各県ともにオンライン研修を重ねてきたこともあり、参加者の多くはZoomミーティングの経験があり、研修以外の接続や設定のトラブルは、ほぼ聞かれませんでした。その分研修に集中することができていたと思います。

主催県である愛媛県私立幼稚園協会会長・二宮先生の挨拶に始まり、記念講演では鳴門教育大学の佐々木晃先生が、大会テーマに沿った「社会に開かれた質の高い幼児教育のために」と題してご講演いただきました。社会に開かれた幼児教育を展開するためには非認知能力が重要であることは近年よく語られますが、長く実践者として活躍している佐々木先生が、動画や写真を用いた事例を交えて、わかりやすく解説して下さいました。また質の高い教育の成果が20年30年後に大きく現れることなど、参

加者の心に大きな足跡を残した講演になりました。

設置者園長部会ではEリソースセンターの石田敦志先生より「人気園であるための未来対応型学園経営について」と題してご講演いただきました。幼児教育無償化により2年保育はおろか、3年保育すら激減する。さらに保育料や保育時間に差をつけることが難しく、質の高い園が選ばれるようになる。また園児数が減っていても、教育保育スタッフの確保は今後も厳しい状況が続く。したがって今後の園運営については低年齢化への対応と教育保育の質の向上が欠かせない。といった内容を、具体的な数字も提示しながらわかりやすく解説して下さいました。

6つの分科会は、一日目に提案発表と質問受け付け、二日目に質疑応答とブレイクアウトルームを使ったバズセッションを行いました。Zoomミーティングでは発言を控えてしまうことも懸念されたため、グループの人数は8人以下にとどめ、それぞれに討議の柱で示された内容を話し合いました。一部で停滞する時間が出てしまったグループもあり、事前の説明に工夫があればよかったかもしれません。それでも多くのグループで積極的に話し合いが行われ、レポートの記述欄でも「多くの示唆に富む発言があった」という方が多くありました。

オンラインでの実施ではありましたが、愛媛大会に参加していただいた先生方、並びに運営に携わって下さった方々に改めて感謝申し上げます。そしていつもの言葉で締めたいと思います。

「次回は対面でできるといいですね、ありがとうございました。」

(愛媛県私立幼稚園協会教育研究委員長、松山市・認定こども園高縄幼稚園／住田信幸)



2022年12月号より、西九州大学短期大学部幼児保育学科教授の牛丸和人氏による年間連載を開始いたします。発達段階に応じた造形（表現）教育等を専門分野とし、教育者でありながら画家としても活躍されている牛丸先生の連載を参考に、幼児教育への理解を深める機会にさせていただきますと幸いです。

園で取り組むSDGsって？

西九州大学短期大学部
幼児保育学科教授 牛丸 和人

I 保育士会からのご相談

先日、伊万里市（佐賀県）の保育士会会長様から次のようなご相談がありました。「各園でもSDGsを推進するようと言われてますが、実際に何からどのように取り組めばよいのか頭を抱えている園が少なくありません。アドバイスをお願いします」

今やテレビのCMを始め様々な場所で耳にするようになったSDGsというキーワードですが、実際に園ではどのような取り組みを展開すればよいのでしょうか。今回は「園で取り組むSDGsって？」というテーマでお話しさせていただきたいと思えます。

II 日本にも昔からあったSDGs

皆さまご存じのようにSDGsとは持続可能な開発目標という意味で17のゴールと16のターゲットが示されています。「何だか難しそうだし、そん

なにたくさんのことを園でやれるの？」と思われる園長先生がいらっしゃるでも無理はありませんね。ですがSDGsの考え方は日本にも昔からあったことに気づかされている園長先生方も多いはずですよ。例えば以下のようなことです。

(1) もったいない（節約）

各家庭では、野菜一つをとっても可能な限り捨てる部分を減らし、全てを使いきるように工夫していました。

(2) おゆずり（再利用）

着られなくなった衣類を兄弟や親類、そしてご近所でゆずり合っていたのではないのでしょうか。

(3) ありがたい（感謝）

「お蔭さま」「いただきます」「ごちそうさま」といった、受けた恩や命への感謝の言葉が日々家庭でも自然に交わされていたはずですよ。



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。

創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。

あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS

(4) 情けは人の為ならず（支援）

「向こう三軒両隣」のご近所づきあいを始め、困ったときには「お互い様」という気持ちで支援し合ってきました。

こう考えると「10の姿」とSDGsがリンクすることにも気づかれるはずですよ。

Ⅲ まずは4つのキーワードから

園におけるSDGsの実践内容は、まずは上にあげた4つのキーワードから考えてみてはいかがでしょうか。①節約、②再利用、③感謝、④支援の4つです。そしてそれらを以下の5つのレベルに照らして整理すればよいと思います。

- 1 園（教職員）が日々実践すべきレベル
- 2 保護者と連携して実践すべきレベル
- 3 地域の人材と連携して実践すべきレベル
- 4 子どもに実際に体験・実行させるレベル
- 5 主として国や行政がやるべきレベル

17の目標全てを園の実践に網羅することなど無理な話です。園の課題はSDGsの実践以外にも盛りだくさんなのであります。

伊万里市保育士会のオンライン研修会では先生方から実践例として次のようなことがあげられました。

- 水道の水をとめ電気をこまめに消すことを日々園児の前で教職員が率先垂範する。
- ゴミの分別だけでなく、造形遊びに廃材や家庭

で捨てられるものを再利用する。

- 園内の会議や研修資料には裏紙を使う。
- 保護者同士の「お譲り会」を開催する。
- 「いただきます」「ごちそうさま」を食事の前後で言うことを家庭に呼びかける。
- 障がいのある人や外国人（留学生・技能実習生など）との交流などダイバーシティを意識した出会いの場をもつ。
- 田植えなどの栽培体験・農作業見学・農家の苦労話や日々食事を作っている園の給食調理師、保護者から食提供への思いをきく場をもつ・・・などです。

新しいことではなくても、やれるのにやってこなかったことから取り組んでもよいと思うのです。ただし「お譲り会」を開く際は、譲ってもらう保護者が引け目を感じないように「この会は再利用（リサイクル）の推進、SDGsの理念に基づき開くものです」といった広報・啓発も忘れてはならないでしょう。

園で取り組むSDGsは、まずは教職員、園児、保護者が「やろうと思えばできるのにやっていないこと」を4つのキーワードに照らして整理し、各園の実態に応じて実践していくことから始めてみませんか？

人材育成・人材確保の悩みに解決のヒントをご提案します

園のリーダーのために 保育ナビ

予測困難な時代に対応した保育・園運営に役立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「乳児保育」「小学校との接続」など必須の情報をお届けします。

B5判 80ページ 定価 1,100円（本体 1,000円＋税 10%）

「子ども主体の保育」
「小学校との接続」など、
注目テーマも掲載！

誌面と
連動した動画を
毎月配信！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 子育て支援事業部まで

キンダーブックの **フーベル館**



受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります。詳細については、「**受配者指定寄付金事務の手引**」をご覧ください。

参照：私学事業団ホームページ[助成業務のご案内] ▶ 受配者指定寄付金 ▶ 受配者指定寄付金「寄付金事務の手引」

ご不明な点など、下記までお気軽にご相談ください。

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7316 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <https://www.shigaku.go.jp/>

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

はじめてみませんか
寄付金募集

寄付金は私立学校の
重要な収入源です！

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

埼玉県の人材確保の状況

埼玉県は、東京都のお隣という土地柄、県内だけでなく、東京都の養成校からも職員を多く採用しております。給与面など東京の園と比べられてしまう地域と、そもそも養成校が少なく、学生さんの数も多くない地域とがあり、地域性は単純ではありません。(公社)全埼玉私立幼稚園連合会人材委員会では、かねてより県内外の養成校と連絡協議会を設け、情報交換や養成校の要望を伺う機会としてきました。近年は採用に関する話題が中心となることから、就職担当部署の方に積極的に参加していただいております。

また、八年前より県の補助をいただきながら、連合会加盟園以外にも門戸を広げて合同就職説明会を実施しております。コロナ禍で開催の方法が変わった部分もありますが、埼玉県の幼稚園では人材派遣会社に頼らない採用ができることを目指し、県内各園と養成校の双方に対し、周知を努めてきました。今年度の合同就職説明会はオンライン式と対面式で一回ずつ開催いたしました。オンライン式では、コロナ禍で当連合会でも多くの研修がオンライン方式となっていたことが幸いし、各園もスムーズに参加でき、参加者にとっても園訪問の足掛かりとして気軽に参加できたようです。二年ぶりとなった対面式は、直接園の話が聞ける貴重な機会と捉え、一つでも多くの園を知ろうとする参加者の熱意を感じました。

残念ながら当事業に対する県からの補助は減っておりますが、参加園は継続を強く希望しているため策を講じながら事業を継続し、さらに発展させていけるよう、委員一同励んでまいりたいと思います。

(全埼玉私立幼稚園連合会人材委員長、鴻巣市・吹上中央幼稚園／島田久美子)

リーフレット 「こども どこ」発行

このたび、(一社)大阪府私立幼稚園連盟教育研究所の第26次プロジェクトチームが6年間の実践研究を積み重ね、その研究成果をもとに、「こども どこ」というリーフレットを発行しました。

AIやロボットとの共存社会が進む中、今の子どもたちが大人になった時に求められるものは、豊かな人間性とモノやコトをつくりだす想像力や創造する力と考えます。友だちとの関わりや遊びを通じた体験を重ね、様々なモノやコトに興味関心をもって行動していくことができる主体的な学びが大切です。

リーフレットでは歳児ごと(0歳児～5歳児)に育ちの視点を記述しており、「興味関心」「好奇心」「達成感」「思いやり」といった、数値化しにくい(目には見えにくい)子どもの姿や育ち(非認知的能力など)が分かりやすく記載しています。

子どもが生まれて初めて出会う学校(幼稚園等)での豊かな園生活の中で、「子どもの根っこ」を大切に育てていく幼稚園の魅力を十二分にご理解頂ける内容になっています。

このリーフレットは、一人ひとりの子どもが自分らしく健やかに育つ社会となることを願って、現場の保育者が作りました。保護者や教育保育関係者だけではなく、行政や社会全体を含めた「かつて子どもだった全てのみなさん」にご覧いただき、子どもの世界のおもしろさを今以上にお知り頂き、子どもたちの一番の応援団になって頂けましたら幸いです。

((一社)大阪府私立幼稚園連盟広報委員長、大東市・朋来幼稚園／藤井宣昭)

ニュースのひろば

令和4年10月17日に以下の通り厚生労働省から周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

令和4年度「児童虐待防止推進月間」実施要綱

1. 名 称

児童虐待防止推進月間

2. 趣 旨

児童相談所の児童虐待相談対応件数は依然として増加傾向にあり、子どもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たない。児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき重要課題である。

厚生労働省では、毎年11月を「児童虐待防止推進月間（以下「月間」という。）」と定め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、関係機関・団体等の協力を得て、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施するものである。

3. 基本方針

- (1) 児童虐待問題への国民の理解の浸透及び児童虐待防止に向けた国民的意識の高揚・定着
- (2) 地域社会に根ざした児童虐待防止に向けた取組の促進
- (3) 児童虐待防止に向けた取組における関係団体、関係機関、地域住民等の連携強化

4. 標 語

『 「もしかして？」 ためらわないで！ 189(いちはやく) 』

どうじょう ここみ
東條 心海さん（静岡県）の作品

※ 全国公募により選定

5. 期 間

令和4年11月1日（火）から30日（水）まで

※ 実情に応じ、期間延長等の変更可。

6. 主 唱 者

厚生労働省

広報委員会からのお知らせ

このたび、本連合会では、機関紙『私幼時報』をデータにて公開することとなりました。公開範囲は加盟園のみとなりますので、データにて閲覧を希望される方は、本連合会または貴都道府県事務局へお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

▼ HP 掲載イメージ

全日本私立幼稚園連合会 全日本私立幼稚園PTA連合会

全日私幼連.com

ホーム > 全日本私立幼稚園連合会 > 私幼時報一覧 > 私幼時報一覧 (2022年)



今後の主な会合予定

- 12月 9日 PTA 全国大会 東京・私学会館
- 12月 16日 団体長会・理事会合同会議
東京・私学会館
- 2月 24日 常任理事会 東京・私学会館
- 3月 3日 団体長会・理事会合同会議
東京・私学会館

※会合の日程は変更になる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

ホーネット 車内置き去り防止システム

カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

- エンジン停止後にブザーが鳴ります。
- 見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！

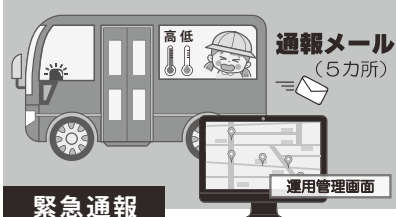


標準セット

超音波センサー

2段階衝撃センサー

車両の位置情報や移動履歴などをスマホやPCで管理できます。



緊急通報

運用管理画面

アナログによる
ヒューマンエラー
防止

デジタルによる見守り

株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
ホームページ: <https://www.child.co.jp/>

編集後記

朝夕が少し肌寒い季節となり、当地域では運動会シーズンとなっております。コロナ禍で、今年も運動会を縮小して開催したり、延期をしたりと各園・小学校共々、対応への気苦労を感じられます。我々にとっては、異例の事態となっておりますが、今年卒園する年長児にとっては、これが幼児組になってからの当たり前前の生活になってしまっていたのだと、行事の様子を振り返ると、もの悲しい気持ちがいたします。そのような中でも、いろいろと模索をして子ども達にとってより

良い体験の場を用意して下さっている、現場の先生たちには頭が下がる思いです。

世間のニュースも、なんとなく暗いものが目に付くことが多く感じますが、大谷翔平選手のニュースを見ると心が明るくなります。達成した偉業だけでなく、ひとつひとつの行動に思いやりを感じ、彼の生き方を見習いたいと思うとともに、これからも世界の子供も達の憧れの存在として活躍し続けていただきたいです。

(広報委員・青柳貴也)

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表